

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
成人・老年看護学実習Ⅰ(周術期)		必修	2	3	後期	
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
堀口 まり子 他	410	mariko.horiguchi	実習終了後 16:00~17:00			
授業の目的・概要	成人看護援助論Ⅰおよび成人・老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識と技術を基に、侵襲的な検査や治療が対象の身体面・精神面に及ぼす影響を理解し、術前・術中・術後の対象に応じた看護援助を行い、周術期における対象の回復過程の支援の学びを深める。 生体侵襲の大きい検査・治療に対する看護の特性を理解し、対象者に合わせた看護を実践するために必要な知識や技術を修得する。					
学習上の助言	成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護援助論、老年看護学実習の学びを基に、専門基礎科目の知識の理解を深めること、さらには対象者であるその人への理解を深め自らの看護への関心を高められるよう実習を通して学びを深めることを勧める。					
教科書	受け持ち対象者に合わせて各自で選択する。また教員からも適切な教科書をその都度提示する。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座(医学書院)の疾患別の教科書</li> <li>・経過別成人看護学②周術期看護:編:烏田理佳 明石恵子 //ナガカワ社 /2023</li> <li>・看護が見える フィジカルアセスメント / 医学書院</li> <li>・1・2年次に使用した、人体構造機能学、疾病治療論、薬理学、病理学等の参考書も必要である。</li> </ul>					
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針			
①	周術期にある対象者の特徴を理解できる。	HSU(1),NS(1)				
②	周術期にある対象者の検査および手術を含む治療と予測される合併症が理解できる。	NS(1)				
③	周術期にある対象者の回復への看護の計画・実施・評価・修正ができる。	HSU(4),NS(1)(2)(3)				
④	対象者の不安や苦痛を理解し、緩和するための援助ができる。	HSU(1),NS(3)(4)				
⑤	周術期における医療チームの連携を学び、看護師の役割を理解できる。	HSU(4),NS(3)(4)				
⑥	看護職者を目指すものとしてふさわしい態度をとることができる。	NS(1)(5)				
授 業 計 画						
1. 実習時期・期間・時間 実習時期:3年次 後期、実習期間:2週間 実習時間:9:00~16:00 2. 実習場所・実習グループ 実習要項参照 3. 実習展開						
	週	月	火	水	木	金
	1週目	学内実習	臨地実習	臨地実習	臨地実習	臨地実習
	2週目	臨地実習	臨地実習	臨地実習	臨地実習	学内実習
4. 学生配置 学生は1グループ6~7人とする。 5. 最終提出物について 各個人で実習評価表、実習記録一式、課題レポートを提出する。 *詳細については、実習オリエンテーション時に説明する。						
学習課題・学習時間(時間)						
<概要> ・臨地実習は、1年からの学びの総学習と位置づけられる。そのため、これまで学んできた基本教育科目、専門教育関連科目、専門教育科目についての復習および実習中における学び直しを積極的に行うこと。 ・成人看護援助論Ⅲで学習した看護過程の展開について復習し、習得して実習に臨むこと。						
<学習課題・学習時間詳細> 1. 実習オリエンテーション 実習前の各論実習オリエンテーションで、実習目的・目標・具体的行動目標・倫理等について説明を行う。 2. 事前学習(1時間) 学習上の助言で提示した既習の知識およびこれまで学んできた基本教育科目、専門教育関連科目、専門教育科目について整理・ファイリングし、実習中に活用できるよう準備する。 3. 日々の実習記録(1時間×10日=10時間)、看護過程記録(2時間×8日=16時間) 日々の実習終了後、学び、考えたことをまとめる。 4. 実習のまとめのレポート(3時間) 全ての実習終了後、既習学習で学んだことと結びつけて考察し、自分の考えをレポートにまとめる。						
必要時間:30時間						

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

総合評価割合(%)		達成度評価					
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	70	20	0	10	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	5	0	0	25
	思考・推論・創造する力	0	35	0	0	0	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	5	5	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	5	5	0	5	15
		0	5	0	0	0	5
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	評価は、日々の実習記録、看護過程の展開の記録および課題レポートにて行う。				記録物の添削を行い、日々の個別面接時、口頭およびコメント記載によりフィードバックする。 評価面接時、授業評価点の一部として提示する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①	✓	ケースカンファレンスで受け持ち患者への看護についての看護展開についての発表および学生同士の意見交換での姿勢により評価する。				発表後のカンファレンス時、グループ全体に口頭にてフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①		実習姿勢を総合的に評価する。				実習中、口頭およびコメント記載によりフィードバックする。評価面接時、取り組みの姿勢における授業評価点の一部として提示する。
	②						
	③						
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	佐野 宏一郎 山崎さやか 吉岡 陸世						
教 員 の 実 務 経 験	科目責任者は、看護師として40年の臨床経験を持ち他の教員も看護師として豊富な臨床経験を有する。						
実 践 的 授 業 の 内 容	実務経験のある教員のもと、周術期の患者と家族への看護の実際を学ぶ。						
そ の 他	<実習における注意事項> ・記録物は教員の指定した期限を遵守し提出すること。 ・実習を通して倫理的な態度で行動すること(言葉づかい、他者の話を聴く姿勢、報告・連絡等)。 ・実習期間中の健康管理に心がけ、体調を整えて実習に臨むこと。 ・感染症の状況など社会情勢により再度シラバスが変更になる可能性がある。						